



学校創立142周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和3年8月19日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」

あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども

～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校



東京オリンピック

校長 井上 泉

東京オリンピックが閉幕しました。どの競技の、どの選手に、あるいはどの瞬間が心に残っているのでしょうか。せっかく日本でありながら、無観客だったことは非常に残念ですが、連日報道される結果に一喜一憂していたのは私だけでしょうか。

4年に1度開催されるオリンピック。予選を勝ち上がり、世界ナンバー1を決定するものです。手に汗握る接戦が繰り広げられました。柔道では、数々のメダリストが誕生しましたが、73Kg級で2連覇を達成した大野選手が畳を降りる際の、礼節を大事にする綺麗な「一礼」に感動しました。また、卓球の混合ダブルスの準々決勝で、大量にリードされ、いよいよ6-10と相手にマッチポイントを握られても、諦めず大逆転しました。心の強さ、諦めない気持ち、改めて大切だと実感しました。他にもわずか13歳で金メダルに輝いたのはスケートボード女子ストリートの西矢選手、水泳で2冠に輝いた大橋選手、女子ソフトボールや野球等々。もちろん鹿児島出身のメダリストや入賞者もいます。おおいに健闘をたたえたいものです。



しかし、輝かしい成績の裏には、涙を流す選手がいたことも忘れてはなりません。陸上の男子400mリレー決勝での痛恨のバトンパスミスは、勝負の怖さをまざまざと感じました。

また、まもなくパラリンピックも開催されます。私たち人間のもつ力・たくましさを感じることができます。ぜひ応援してください。

さて、あと10日余りで2学期が始まります。運動会に向けて、取り組みもスタートします。得意・不得意もあるかもしれませんが、でもみんなと協力して、東京オリンピック・パラリンピックに負けないよう、盛り上げていきましょう。

戦後76年…

今年が戦後76年。8月に入ると新聞でも多くのことが報道されます。広島・長崎は世界で原爆の落ちた唯一の場所です。その当時の悲惨な状況は私たちの想像をはるかに超えています。

鹿児島には、有名な特攻基地があり、数多くの若者が飛び立っていきました。各地の特攻の祈念会館には貴重な資料が数多く展示してあります。

これは知覧特攻平和会館に展示されている手紙の一部です。

我が子へ

父恋しと思はば空を見よ

大空に浮かぶ白雲に乗りて

父は常に微笑みてむかう

(特攻へ飛び立つ父が子どもへ宛てた手紙)

母へ

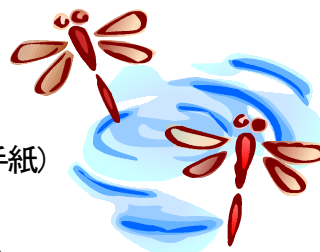
軍人の母として女々しきことのないように・・・

(特攻へ飛び立つ息子が母へ宛てた手紙)

家族へ

同封の大きい写真は黒縁用に使って下さい。(葬式用に)

(特攻へ飛び立つ息子が家族へ宛てた手紙)



これを手にした家族は、どんな思いで読んでいたのでしょうか。私たちは、戦争を知らない時代に育っています。1日が当たり前に過ぎていき、物があふれ、暑い日もクーラーの中で過ごし、冷たいものをほおばり、贅沢な日々を過ごしています。1日を無事過ごせるありがたさを忘れてしまっているのかもしれない。

戦時中は中学生くらいの年齢でも、戦争にかり出されています。私たちは、今一度真剣に歴史をひもとく、平和な社会・平和な毎日を見つめ直さなければならない時期なのかもしれません。